

公共選択学会会員の皆様へ

コロナ禍の中、会員の皆様におかれましても大変な状況にあるかと拝察します。

大学人として高等教育を維持し続けなければならないことはもちろんですが、研究の火も絶やすことのないよう、できる限りの努力をすることが学会の使命と考えております。第168回mail理事会におきまして、下記の方針が承認されましたので、会員の皆様にご連絡差し上げたいと存じます。

公共選択学会会長 長峯 純一

<全国大会>

- ・ 事態が改善し、全国大会の通常開催が可能になる場合も想定し、開催校(東海大学)にはとりあえずの日程決定(11月~12月)をお願いする。
- ・ 事態が改善しない場合には、原則オンライン形式による開催とする。開催方法については、学会執行部と開催校実行委員会・企画委員会とで相談の上、9月末までに理事会に提案をし、決定する。
- ・ 事態が改善しない場合を想定し、プログラムに基調講演などの企画もの、依頼もののセッションを設けない。基本的に研究報告だけとし、通常開催が可能になった場合も二日間ではなく一日のプログラムで行う。
- ・ 研究報告の募集、論文の締切、提出については、基本的に例年通りに行う。
- ・ 開催校実行委員会・企画委員会には、この間オンライン形式による開催方法について、他学会等を参考に、研究を進めていただく。合わせてポスター発表に相当するもの、会員間のコミュニケーションを図るための工夫についても検討していただく。それらの情報を学会執行部と共有する。
- ・ 大会時に行う理事会および総会についても、別途オンラインでの開催の可能性を検討する。
- ・ オンライン開催となった場合の学会から開催校への開催補助費については、改めて理事会に提案をし、承認を得る。通常開催よりも経費が少なく済むことも考えられるし、予想しない経費がかかることも考えられるため、学会執行部と開催校実行委員会とで適宜相談しながら準備を進める。

<学生の集い>

- ・ 例年のように4月中にテーマを発表し、通常開催を想定して各ゼミには準備を始めてもらう。
- ・ HP等を通じて、学生には次の点を周知徹底する。「新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、担当教員の指導に従いつつ、各大学の学習支援システムなどを使いながら、直接集まって作業することをできるだけ避けて論文を作成すること。」
- ・ 開催校(拓殖大学)提案の12月19日をとりあえずの日程として設定する。
- ・ 全国大会と同様に、開催方法については、学会執行部と「学生の集い」運営委員会(加藤賞選考委員会)・開催校実行委員会と相談の上、9月末までに理事会に提案をし、決定する。
- ・ 通常開催と異なる方法での開催となる場合は、「学生の集い」運営委員会(加藤賞選考委員会)・開催校実行委員会が学会執行部と相談しながら、具体的な方法を検討し実施する。

★全ての大学の前期がスタートする連休明けを前に、学生の集い開催校実行委員会によるホームページが準備されましたので、ご連絡申し上げます。公共選択学会の特色たる学生の集いに関しても、しっかりと維持していきたいと思っておりますので、積極的な参加、活用、協力のほどお願いできれば幸いです。

<https://sites.google.com/view/publicchoicestudent2020/>